

2. 日本のがん検診

国立がん研究センター がん対策研究所 検診研究部 中山富雄

日本と諸外国のがん検診の違い

	日本	米国	北欧、イギリス
運営形態	市区町村が実施主体の対策型検診 事業主や健康保険組合がオプションとして提供する職域でのがん検診 人間ドックで提供される任意型検診	医療保険を用いた任意型検診	国/州が実施する組織型検診 (organized screening)
費用負担	公費・福利厚生費/ 自己負担あり	健康保険で全額補助	公費で全額補助
検診の種類	5臓器 職域や任意型検診では様々	乳、子宮頸、大腸、 肺（重喫煙者）	乳、子宮頸、 （大腸）

検診についても色々ありまして

- 対策型検診？ 任意型検診？
- 職域検診？ 人間ドック？ 住民検診？
- 集団検診？ 個別検診？

検診受けろって言われたけど、
どこに行って、何を受けたい
いのかなあ？



対策型検診と任意型検診の理論的背景

	対策型検診 (住民検診型) Population-based screening	任意型検診 (人間ドック型) Opportunistic screening
目的	対象集団全体の死亡率を下げる	個人の死亡リスクを下げる
検診費用	公的資金を使用	全額自己負担
利益と不利益	限られた資源の中で、集団にとっての利益を最大化する	個人のレベルで、利益と不利益のバランスを判断する
感度・特異度	特異度が重視され、不利益を最小化することが重視される	最も感度の高い検査の選択が優先されがち

がん検診に関連する法令等

	住民検診	職域	人間ドック
根拠法	健康増進法	なし*	なし
実施要領	健康増進事業実施要領 「がん予防重点健康教育 及びがん検診実施のための 指針」	職域におけるがん 検診に関する マニュアル	(日本人間ドック 学会マニュアル) **

* ; 労働安全衛生法・労働安全衛生規則には、がん検診に関する記載はない。

** ; 学会のマニュアルであり、非学会員への拘束力はない。

がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針

(健発第0331058号平成20年3月31日厚生労働省健康局長通知別添)

(平成25年3月28日一部改正)

(平成26年6月25日一部改正)

(平成28年2月4日一部改正)

第1 目的

この指針は、がんが国民の生命及び健康にとって重大な問題となっている現状にかんがみ、がん予防重点健康教育及びがん検診の実施に関し必要な事項を定め、がんの予防及び早期発見の推進を図ることにより、がんの死亡率を減少させることを目的とする。

第2 がん予防重点健康教育

1 種類

がん予防重点健康教育の種類は、次のとおりとする。

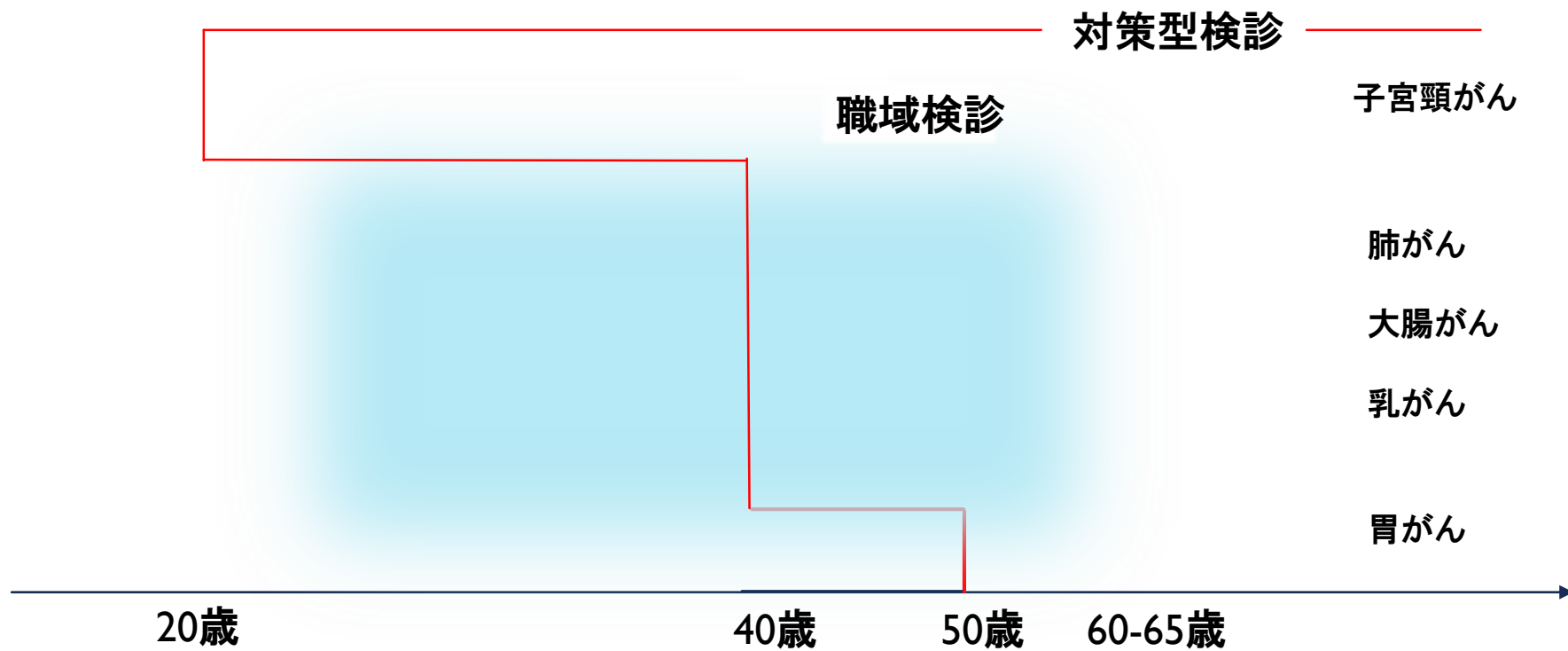
- (1) 胃がん予防健康教育
- (2) 子宮頸がん及び子宮体がん予防健康教育
- (3) 肺がん予防健康教育
- (4) 乳がん予防健康教育
- (5) 大腸がん予防健康教育

2 実施内容

がん予防重点健康教育は、がん検診を受診することの重要性に加え、おおむね次に掲げる事項に関し実施する。

「指針」と呼ばれる。
対策型検診ではここに記載されたことの遵守が求められる。

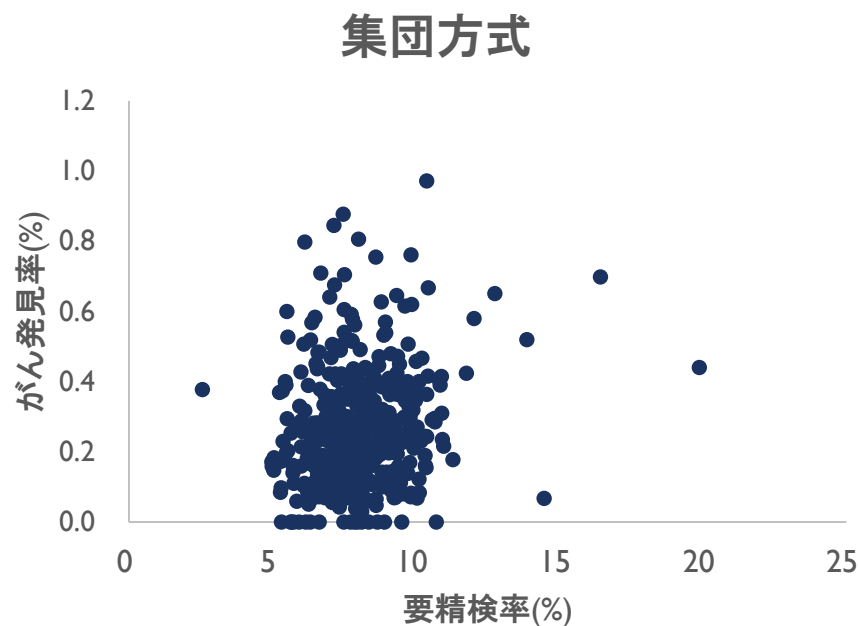
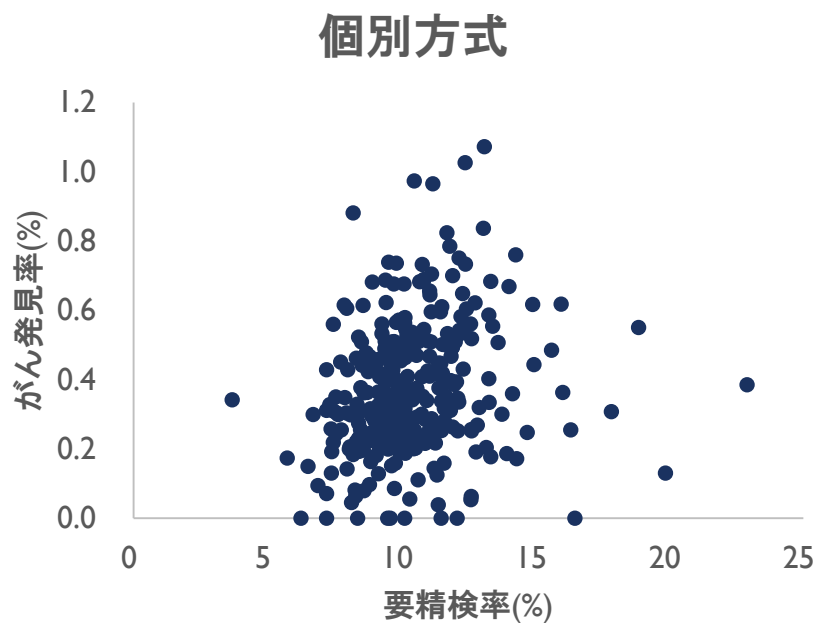
対策型検診と職域検診のカバーする範囲



集団方式と個別方式の比較

おいう	集団方式	個別方式
会場	公民館、小学校、保健センター	各医療機関
スケジュール	制限が加わりやすい	融通が利く。夜間も可能
費用	安価 (かつては基準単価があった)	高額 (かつては集団方式の1.5倍)
精度	検診専門なので 精度のバラツキは起こりにくい。	医療との境界がついておらず 精度はバラツキやすい
精検受診率	高い	低い
精検受診勧奨	市町村（検診実施機関）が行う	受診医療機関？市町村？

個別方式は精度のバラツキが大きい

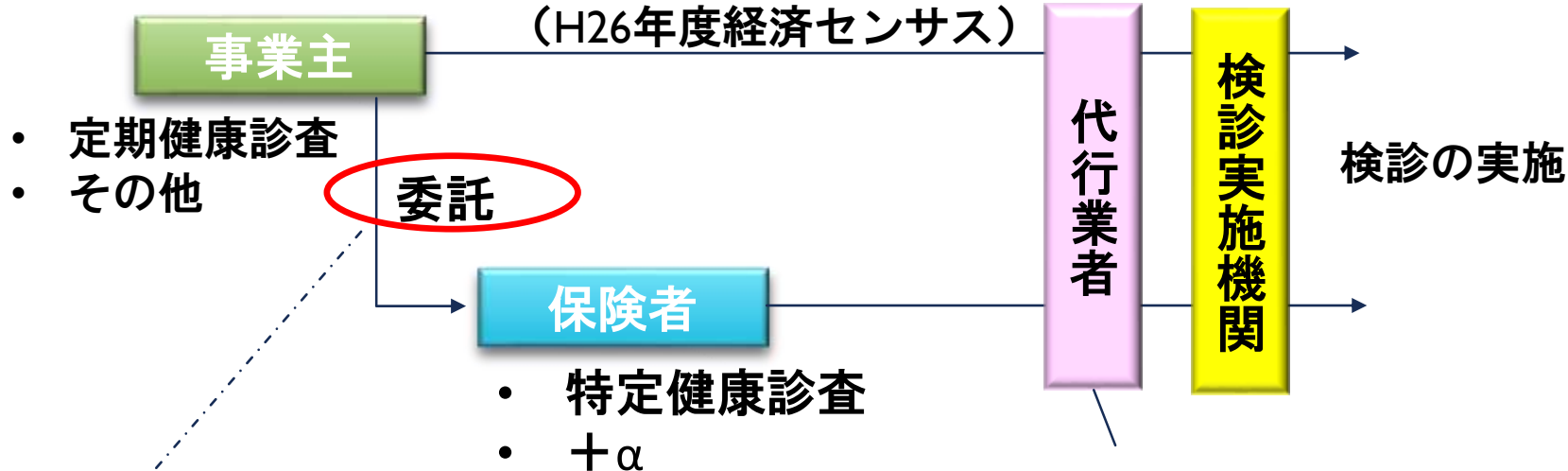


平成28年度健康増進事業報告（大腸がん・男性）

本来検体検査であり、画像検査と異なり、バラツキは生じにくいはず。カットオフ値のバラツキや、症状受診者の混入など検診に対する知識のバラツキが大きい。

職域健康診査の複雑な運営形態

大企業；1.1万， 中小企業380.9万
(H26年度経済センサス)



委託する健康診査の内容が
組織ごとにバラバラ
保険者は費用負担をしている
だけのところもある。

健康診査項目や
検診実施機関のリスト提供
契約の代行、データ収集

職域におけるがん検診に関するマニュアル

平成 30 年 3 月

厚生労働省

内容

I	はじめに	1
II	目的	2
III	がん検診の種類	2
	1. 胃がん検診	2
	2. 子宮頸がん検診	2
	3. 肺がん検診	3
	4. 乳がん検診	3
	5. 大腸がん検診	3
	(参考) がん検診の推奨のレベルについて	4
IV	がん検診の精度管理	7
V	健康情報の取扱いについて、保険者及び事業者が留意すべき事項	9
VI	その他	12
VII	おわりに	14

(別添 1)

精度管理のためのチェックリスト (厚生労働省が作成)

(別添 2)

仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目 (国立がん研究センターが作成)

日本でORGANIZED SCREENINGを目指すための取組 (がん対策推進基本計画の目標)

	取り組むべき施策
第一期計画	<ul style="list-style-type: none">受診対象者を正確に把握し、未受診者への普及啓発・受診勧奨有効性の確認されたがん検診の実施精度管理・事業評価についても十分検討
第二期計画	<ul style="list-style-type: none">科学的根拠のあるがん検診の実施（市町村・職域）精度管理の向上
第三期計画	<ul style="list-style-type: none">受診対象者の明確化将来的に組織型検診への実施体制の整備指針に基づかない方法でのがん検診を行う市町村への働きかけ精密検査受診率の向上（目標90%）職域におけるがん検診に関するガイドライン（仮称）の策定

がん検診のあり方に関する検討会

回数	開催日	議題等	議事録/議事要旨	資料等	開催案内
第32回	2021年3月17日 (令和3年3月17日)	(1) 症長の選任について (2) 乳がん検診について (3) 子宮頸がん検診について (4) その他	-	・ 資料	・ 開催案内
-	2020年3月31日 (令和2年3月31日)	がん検診のあり方に関する検討会における議論の中間整理	-	・ 報告書	-
第31回	2020年3月4日 (令和2年3月4日)	(1) がん検診のあり方に関する検討会における議論の中間整理(令和元年度版)(案)について	・ 議事要旨	・ 資料	-
第30回	2020年1月15日 (令和2年1月15日)	(1) 対象者のリスクに応じたがん検診のあり方について (2) がん検診のあり方	・ 議事録	・ 資料	・ 開催案内

2003年度～2008年度；がん検診に関する検討会
2012年度～；がん検診のあり方に関する検討会

「がん検診のあり方に関する検討会」における議論の中間整理
(令和元年度版)

令和2年3月
がん検診のあり方に関する検討会

推奨されたがん検診を正しく実施する必要がある。

がん検診によるがん死亡率減少のための三要件

①がん検診アセスメント

有効性が確立し、
不利益とのバランスを
鑑みて**推奨された検診**

指針で推奨された
検診の実施／推奨
されない検診の廃止

正しい
検診
手法

②がん検診マネジメント

徹底した精度管理

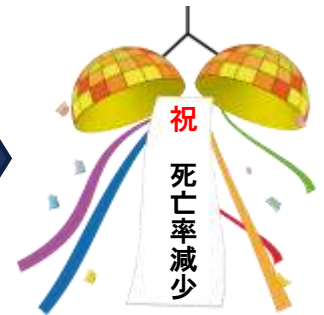
精度管理の体制整備

正しく
行う

③受診規模拡大

受診率向上
対策

目標達成



三要件のどれかが欠けても
目標は達成できない